

科目名	英文法概説Ⅰ		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EEL405
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	大学に入学するまでの学習経験を振り返らせ、時代に即した英語教育指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、生徒が理解しにくい事柄、誤りやすい事柄に留意する指導法について基本的な知識・技能を養成する。				
到達目標及びテーマ	近年の英語学研究成果を踏まえて、現代英語を語法文法の観点から分析する力を養うことができる。また、中学校学および高等学校習指導要領に記載されている言語材料を適切に指導できる英語語法文法の素地を養うことができる。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の言語現象や文法項目を取り上げ、それについての記述を正確に理解する。 ・日々の読書から収集した言語学的に興味深い用例を発表する。 ・言語学の研究成果を踏まえた上で、中学校や高等学校の授業における適切な言語活動を考案する。 				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・英語語法文法研究の具体例の紹介 ・学習英文法が抱える現在の課題
第3回	文と文型
第4回	修飾要素、独立要素と文の分類
第5回	動詞と動詞型
第6回	時制と相
第7回	助動詞
第8回	前半のまとめ
第9回	法と仮定法構文
第10回	態
第11回	話法と時制の一致
第12回	準動詞(1)―動名詞
第13回	準動詞(2)―不定詞
第14回	準動詞(3)―分詞
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の指定の範囲を熟読する。また、関係する文法項目について、検定教科書、学習辞典、総合英語などでの扱いについて確認する。
事後学修	2時間	授業で扱われた文法項目の理解を深めるために、授業内で紹介された参考文献を熟読する。授業で扱われた文法項目に関係する用例を読書から見つけ、データベース化する。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み (ペア/グループワーク・発表・質疑応答)

補足事項	本授業は、毎回、多くの読書が必要ですので、受講希望者は十分にその点を理解しておいてください。英語の実用面の向上を常に意識しながら、本授業に臨んでください。そのためには、(英語で書かれた小説・新聞などの) 日々の読書が不可欠です。授業で得た知見を基盤に、日々トレーニングを積んでください。教職志望者は、将来、教壇に立ったときに、十分な説明を施し、生徒からの質問にも適切に対応できる力の基礎を固めましょう。
------	---

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
現代高等英文法—学習文法から科学文法へ—	八木克正	開拓社	978-4-7589-1023-1	特になし
参考資料	・岡田伸夫 . 2001. 『英語教育と英文法の接点』 京都：美誠社. ・Swan, M. 2016. Practical English Usage Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press. この他は、授業内で、適宜、紹介する。			

科目名	英文法概説Ⅱ		担当教員	西脇 幸太	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED2EEL406
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	プレゼンテーション				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	大学に入学するまでの学習経験を振り返らせ、時代に即した英語教育指導ができるよう、高等学校教諭経験を生かして、生徒が理解しにくい事柄、誤りやすい事柄に留意する指導法について基本的な知識・技能を養成する。				
到達目標及びテーマ	近年の英語学研究成果を踏まえて、現代英語を語法文法の観点から分析する力を養うことができる。また、中学校学および高等学校学習指導要領に記載されている言語材料を適切に指導できる英語語法文法の素地を養うことができる。				
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の言語現象や文法項目を取り上げ、それについての記述を正確に理解する。 ・日々の読書から収集した言語学的に興味深い用例を発表する。 ・言語学の研究成果を踏まえた上で、中学校や高等学校の授業における適切な言語活動を考案する。 				

授業計画	
第1回	イントロダクション
第2回	名詞
第3回	代名詞
第4回	冠詞
第5回	形容詞と限定詞
第6回	関係詞と疑問詞
第7回	副詞と副詞的語句
第8回	前半のまとめ
第9回	比較
第10回	接続詞・前置詞
第11回	英語学研究成果の英語教育への応用例（1）
第12回	英語学研究成果の英語教育への応用例（2）
第13回	英語学研究成果の英語教育への応用例（3）
第14回	英語学研究成果の英語教育への応用例（4）
第15回	まとめ

事前学修	2時間	教科書の指定の範囲を熟読する。また、関係する文法項目について、検定教科書、学習辞典、総合英語などでの扱いについて確認する。
事後学修	2時間	授業で扱われた文法項目の理解を深めるために、授業内で紹介された参考文献を熟読する。授業で扱われた文法項目に関係する用例を読書から見つけ、データベース化する。
フィードバックの方法	毎回の発表や議論に対しては、各発表者に対して口頭でフィードバックを行う。また、必要に応じて個別にメールでフィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	70%	知識・理解・論理的な記述
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業中の取り組み（ペア／グループワーク・発表・質疑応答）
補足事項	本授業は、毎回、多くの読書が必要ですので、受講希望者は十分にその点を理解しておいてください。英語の実用面の向上を常に意識しながら、本授業に臨んでください。そのためには、（英語で書かれた小説・新聞などの）日々の読書が不可欠です。授業で得た	

知見を基盤に、日々トレーニングを積んでください。教職志望者は、将来、教壇に立ったときに、十分な説明を施し、生徒からの質問にも適切に対応できる力の基礎を固めましょう。

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
現代高等英文法—学習文法から科学文法へ—	八木克正	開拓社	978-4-7589-1023-1	特になし
参考資料	・岡田伸夫 . 2001. 『英語教育と英文法の接点』 京都：美誠社. ・Swan, M. 2016. Practical English Usage Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press. この他は、授業内で、適宜、紹介する。			